



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第1号 (H22.4.11)

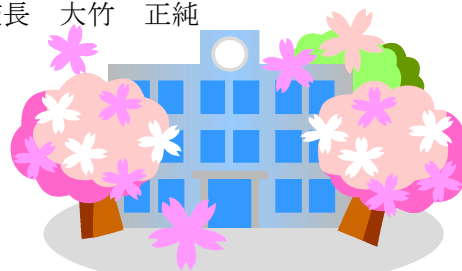
宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 大竹 正純

しつ じつ ごう けん
質実剛健

「知性と気品をそなえ、たくましくあれ！」



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校開校式・第1回入学式

式辞 校長 大竹 正純

校庭の桜が満開になり、春を感じさせるこの佳き日に、宮崎県知事 東国原英夫 様を始め、多数のご来賓と保護者のご列席を得て、ここに宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校の開校式、並びに第1回入学式を挙げて行うことができますことは、私たちの大きな喜びであり、衷心より感謝申し上げますとともに、厚くお礼を申し上げます。

本中学校設置の理念は、教育長のご挨拶の中にありましたが、特に、「自然科学に関する事象への旺盛な探究心」や、「深い科学的洞察力を備えた人材」、さらには、「郷土の産業や、医療等の中核となる人材」の育成を目指すということです。

6年間を見通した、ここでしかできない教育活動や指導計画のもと、生徒一人ひとりの進路実現をサポートし、豊かな人間性の育成を図りながら、個性や能力を伸ばしていきたいと考えています。また、様々な体験活動や、学年の異なる生徒同士の活動を通して、実社会に生きるコミュニケーション能力や社会性を培っていきます。

具体的な教育活動としましては、「数学・理科教育の充実」、「英語のディスカッション能力の育成」、「総合的な学習の時間における探究活動の充実」、自発的に学習に取り組むための「自学の時間」などを設定しています。これらの諸活動を通じて、心にゆとりをもち、幅広い考え方のできる人材、そしてさまざまなことに主体的に対応できる、心豊かでたくましい人材に溢れた附属中学校になるものと確信しております。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。都城泉ヶ丘高等学校附属中学校は、県内で3番目の公立の中高一貫教育校です。地域の方々が長い間待ち望んだ学校で、皆さんはその第1期生となります。入学者選抜を見事に突破して、合格を勝ち得た皆さんの入学を心から歓迎します。今の熱い思いをいつまでも忘れないでください。皆さんは素晴らしい才能にあふれ、多くの可能性を秘めた一人ひとりです。その可能性が中高6年間の一貫教育で大きく開花するでしょう。職員一同、そして都城泉ヶ丘高校の生徒も、皆さんと一緒に過ごすことを楽しみにしています。

皆さんにお願いしたいことは2つあります。都城泉ヶ丘高校は、今年度で創立111年を迎える、輝かしい歴史をもつ伝統校です。これまで東国原知事をはじめ、約3万人の卒業生を排出しておりますが、日本や世界の各分野で活躍されています。これらの卒業生にも、そして後ろに着席している高校生の在校生にも、「**質実剛健**」という精神が脈々と流れています。**この精神は、「堂々とたくましくしていること」、「どことなく気品を感じられること」、「知恵と勇気をそなえ、しっかりと生きていくこと」を意味します。**入学後は、この精神を共有し、自ら磨き、心身をしっかりと鍛えてください。高い志と自ら学び続ける姿勢をもち続け、夢の実現に向けて精一杯努力してください。

2つ目は、新しい環境、新しい友達、新しい先生との出会いは、新しい自分をつくる絶好の機会です。その



ために、かけがえのない級友と学校生活をエンジョイするだけでなく、互いに刺激しあい、切磋琢磨できる一生の友を作ってください。作家のパットパルマー氏は、その著書の中で、「自分を好きになれば、みんなのことも好きになれる。自分のいちばんの友だちになれば、みんなとも友だちになれる。友だちに何かしてあげて楽しいよ。あなたのすてきなところをみんなにわけてあげようよ。」と述べています。どうぞ、みなさんのよさをわかってあげてください。そしてこのような人とのふれあいの中で、大切な友を作ってください。前途洋洋たる新入生の皆さん、皆さんが将来の日本や世界を切りひらく、スケールの大きな人になることを心から期待します。

最後に保護者の皆さま、お子様の入学、誠にありがとうございます。本中学校では、皆さまのお子様を社会の宝として、職員一同全力を尽くして、温かくも厳しく教育してまいります。この生徒たちが充実した学校生活をおくれるように、また保護者の皆さまのご期待に応えるように、学校としても全力を尽くすことをお誓いしまして、式辞といたします。

附中での学びとおして

教頭 玉利 勇二

入学というこれから始まる附中の生活の中で、共に「脳に汗をかく」にあたり、次のこと（私が附中で学んでほしいこと。身につけてほしいこと、そして、皆さん一人ひとりに期待すること）を伝えたいと思います。

- 『先輩』を「あこがれ」「もくひょう」とよむこと。
- 『級友』を「ライバル」「まなびあうもの」とよむこと。
- 『仲間』を「ざいさん」とよむこと。
- 『難しさ、大変さ』を「やりがい」とよむこと。
- 『厳しさ』を「やさしさ」とよむこと。
- 『公共』を「がまん」とよむこと。

等々を学んで、生きるうえでの基本的な考え方を数多く得てほしいと思います。

その財産が、これから君たちが生きる基礎・基本、換言すれば原動力になることは間違いないことであり、それを学んだ学校や学んだことは、絶対に「誇り」になると思います。

新入生として新たな節目を迎えた皆さんは、これから始まる附中での学びをどのような意義深いものにするかが楽しみです。近い将来、附中で学んだことが生きてはたらく力（基礎・基本）となり、それが皆さんの生きる原動力「誇り」になって、一人ひとりの胸に大きなエンブレムとして掲げられたら、大変幸せに思います。

そして最後に、附中生を「まなぶよろこびをしるもの」とよむことも付け加えておきます。

特集を始めます！

保護者の皆さまやお子様のこれからの学習や生活のヒントとなることがらについて紹介していきたいと思ひます。ぜひ、お子様と話題の一つにしていだければと存じます。

特集 お子様への関わり方のヒント① 「傾聴」

良い習慣を身につけさせるためには、保護者の良い関わり方が大切です。その方法として「傾聴」「承認」「質問」というテーマで関わり方について考えてみました。今回は、「聴く」きくことについてです。

「きく」ということは、訊く（ask）、聞く（hear）、聴く（listen）それぞれ意味が異なります。「訊く」は、尋ねる場面や尋問する場面で用いられます。それに対して「聞く」は、相手の声や言葉が聞こえてくるということで、聴き手が自分の都合の良いところだけ聴いている。それに対して「聴く」は、積極的に耳を傾けて、話を聴くことであり、子どもの気持ちをで

きる限り正確につかまえようとする姿勢です。このような姿勢で保護者の方が、お子様の話を聴いていたとしたら、お子様は、よく表現しようとするようになります。

「聴く」ことのポイント

- 1 お子様の立場に立ってみましょう。
- 2 お子様のお話を最後までよく聴き、話の全体を把握しましょう。
- 3 お子様の理解を深めるために、適切な指摘をしましょう。
- 4 保護者の方も、ご自分の言葉を傾聴しましょう。

このように「聴く」ことが、お子様の話をしようとする心を動かします。

